

袋井市歴史文化館

特別展

世界展

大谷青嵐氏
コレクション

素白の



表



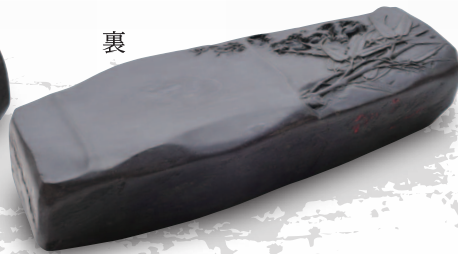
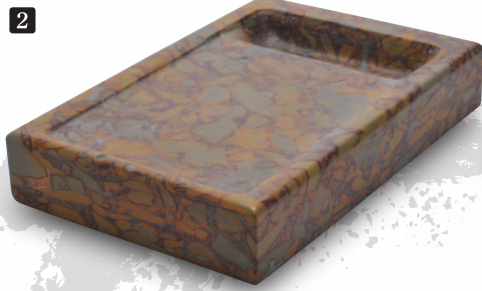
裏

1 萬古焼花器(春来居窯) 川村驥山作

「呵々大咲・かかたいしょう」大声をあげて笑うこと。全く同じ書体の作品が驥山館所蔵の陶板にある。同作品には年号が記されており、「癸巳=昭和28年」であることが知られている。「浩然・こうぜん」心などが、ひろびろとゆったりしているさま。縦26.0×横40.0cm 口径11.0×4.5×厚0.1cm。(寄贈品/当館蔵)

かわむらきざん
川村 驥山

明治15(1882)年5月20日、静岡県磐田郡久努村村松(現袋井市村松)に川村東江の長男として生まれる。名は慎一郎。昭和を代表する書家。6歳(数え)の時、代表作「大丈夫」を披露。11歳にて「二葉」と号し、13歳の時、明治天皇銀婚式に楷書「孝経」・草書「出師表」を暗書して献上天覧の栄に浴す。20歳の時「驥山」と改号。昭和26年書道界初の日本芸術院賞を受賞(70歳)。昭和36年長野市内に「驥山館」完成。昭和41年勲三等瑞宝章を受章(85歳)。昭和44年、88歳にて逝去。袋井市油山寺と篠ノ井円福寺に分骨。



2 五雲豆斑石硯

〔清代末期(1636~1912年)/産地:中国山東省青州〕

3 諸葛孔明書案墨 古墨

〔清・乾隆帝時代(1735~1795年)/産地:中国安徽省徽県〕

4 大清乾隆菩提薩婆訶古墨

〔清・乾隆帝時代(1735~1795年)/産地:中国安徽省徽県〕

5 古歙州微細魚子紋鯢抱陽硯

〔明代初期(1368~1644年)/産地:中国安徽省歙県〕

6 鯉魚黄澄泥蟾蜍硯

〔明代初期(1368~1644年)/産地:中国江蘇省蘇州北靈巖山産〕

7 天壇蟾蜍迎蛇硯

〔清代中期(1750~1770年頃)/産地:中国河南省天壇産〕

8 古端溪竹葉雙螭龍池游硯

〔清・乾隆帝時代(1735~1795年)/産地:中国廣東省肇慶端溪産〕

9 松花江綠石蘭亭硯

〔清末~中華民国初期(1900~1920年頃)/産地:中国吉林省松花江産〕

10 百壽墨柱古墨

〔清代中期(1750~1770年頃)/産地:中国安徽省徽県〕

11 徽州胡開明老萊長壽墨

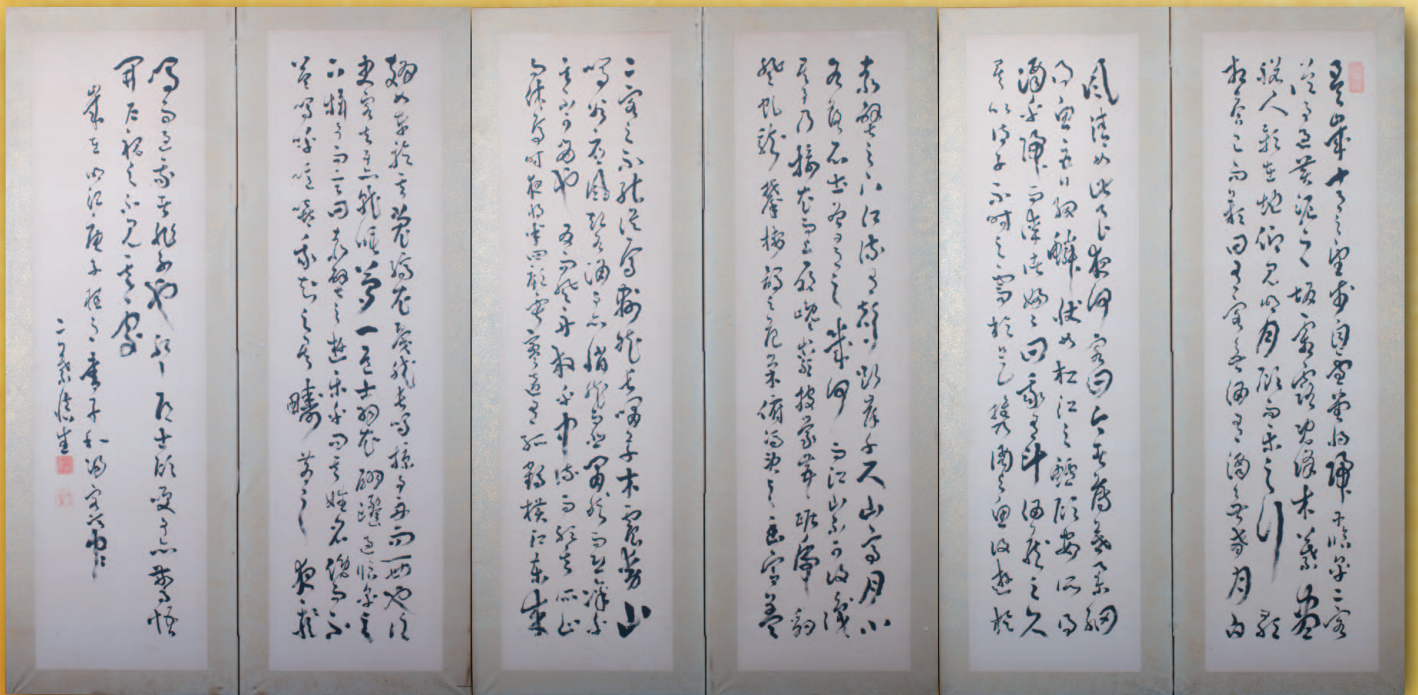
〔清・乾隆帝時代(1735~1795年)/産地:中国安徽省徽県〕

12 雍正皇帝即位 御墨

〔清代第五代皇帝時(1722年)/産地:中国安徽省徽県〕



13 前赤壁賦 川村驥山(二葉)作 「明治庚子」=明治33(1900)年作、19歳。縦138×横276cm。(当館所蔵)



14 後赤壁賦 川村驥山(二葉)作 (当館所蔵)

《赤壁》

中国の湖北省嘉魚県の北東の長江(揚子江)の岸壁の地名。この岸壁が赤褐色をしていることから赤壁(せきへぎ)と呼ばれる。三国志で有名な「赤壁の戦い」のあったことで名が知れて、中国でも有名な名勝地でもある。

宋の時代の政治家で書家としても有名な「蘇軾・そしょく」(蘇東坡)(北宋・1036~1101年眉山に生まれる。)が赤壁に遊んだ折に、『赤壁之賦』を作り、自ら書を書いて石碑に残して一層この地が有名となった。

この蘇軾の赤壁賦を日本の書家川村驥山が全文を書して注目を集めた。川村驥山はこの前後、「赤壁賦」や「前後出師表」をはじめ長文の詩、賦、経を後世に残し、単なる書家ではなく、歴史・文化を通じて後世に伝える業績は顕彰に値するものである。

(解説:大谷青嵐)

《春来居窯に遊ぶ》

四日市市にあった萬古焼の窯元のひとつで、多気槲山が作陶していた。昭和28年ごろ、川村驥山をはじめ、服部擔風・坂井呉城・豊道春海らが集い、各々の得意な「書」「篆刻」などを萬古焼によって表現した。表紙の川村驥山作・花器も同時代の作品。



表

裏

15 萬古焼花器 (春来居窯) はっとり たんぶう 服部擔風作

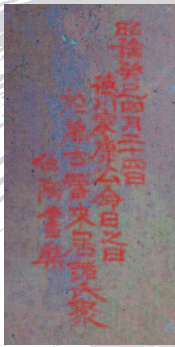
「華用寿」・「太和自然」。

縦31.0×底部幅17.5×胴部最大幅29.0×口縁16.5×8.5×厚1.0cm。(寄贈品/当館蔵)

表



裏



16 萬古焼陶板 (春来居窯) ぶん どうしゆんかい 豊道春海作

「祿」。裏面の朱書から、「昭和癸巳」=昭和28年製作である。

縦32.3×横33.3×厚0.6cm。(寄贈品/当館蔵)



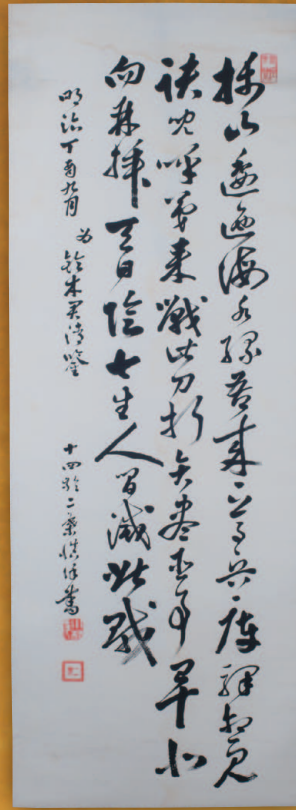
17 萬古焼平皿 (春来居窯) さかい ことじょう 坂井呉城作

「日々是好日」。

縦8.2×最大幅19.0/最小幅10.0cm×厚0.6cm。(寄贈品/当館蔵)

18 川村驥山(二葉)作

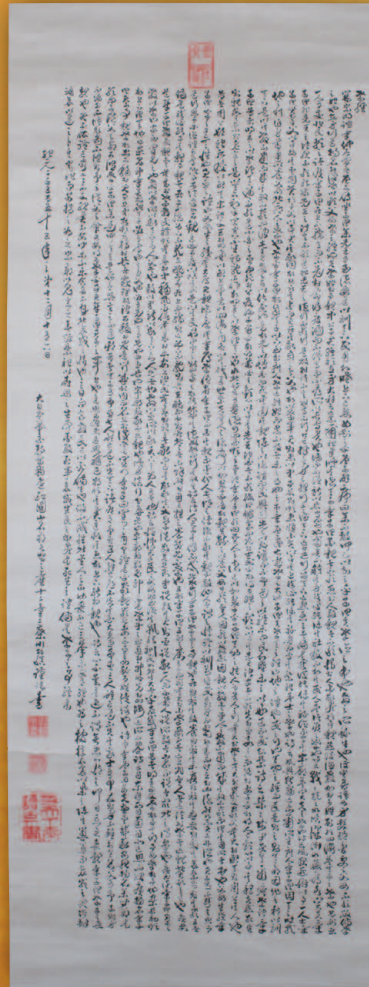
明治30(1897)年・十四歳。
(大谷氏蔵)



19 川村驥山作

『老子』第八十一章「聖人之道 為に而不争」聖人の道は、どんな行動でも人と争うということをしてない。

(大谷氏蔵)



20 川村驥山(二葉)作

『孝経』。明治28(1895)年・十二歳。落款部分に「遠江山名郡久努村」の文字が見える。(大谷氏蔵)

特別展 **書**の世界展 大谷青嵐氏コレクション

平成27年 5月16日(土)~6月19日(金) 9:00~17:00 入場無料

※期間中、6月6日(土)・7日(日)・13日(土)・14日(日)は休館

袋井市歴史文化館 静岡県袋井市浅名1028番地(浅羽支所内) TEL.0538-23-9269



本書作成にあたり、下記の方々にご協力いただきました。(順不同・敬称略)
大谷青嵐・川村龍洲・服部一宏・弥富市歴史民俗資料館